

アシストスーツ

(令和5年2月作成)

事前検討チェックリスト

- ✓ 導入する目的がはっきりしている。
- ✓ 導入する作業を特定できている。
- ✓ どの機種が導入する作業に適しているか検討した。
- ✓ 実際に作業する場所では、装着した状況で作業できるか、動作の障害となる突起などが無い確認した。

運用中に発生したトラブル事例

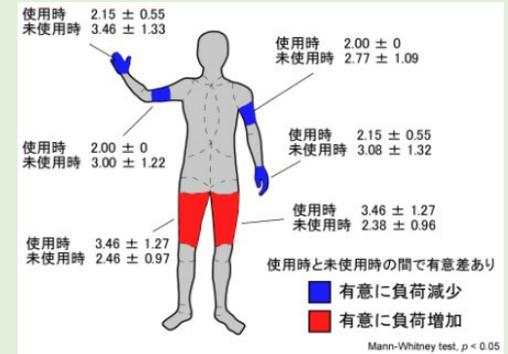
- 腰への負担は軽減されたが、太腿とふくらはぎへの負担は増加した。
- 装着したまま車を運転できず、着脱動作が手間となる。

※仕様等は使用時点の最新版を確認してご活用ください。



導入効果

- 繰り返しによる操作の習熟で、スーツ未使用時と同程度の速度での作業が可能。
- 疲れによる作業時間の増加が抑えられる傾向がある。
- 作業の負荷は腰ではなく太腿にかかる。また、ウインチによる持ち上げ補助は負担軽減効果が大きい。



身体負荷評価シート（加藤等，1999）を使用（近畿大学農学部倫理規定承認番号 2019-8）

出典：

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/pdf/pamphlet/r1/R1_1-42.pdf

この他の導入事例は成果ポータルのアシストスーツのページ

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/gijutsu/portal08.html をご覧ください。



導入効果が現れない例

- 導入した機種は、飛び出したアームが邪魔になり棚下作業に向かなかった。
- 導入した機種は、歩きにくく、圃場での収穫作業など複雑な動きの作業には向かなかった。